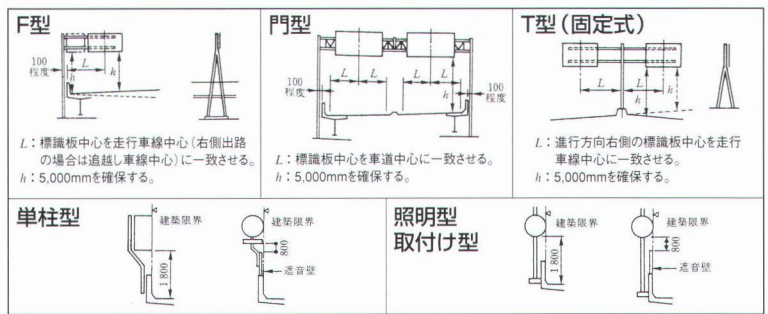


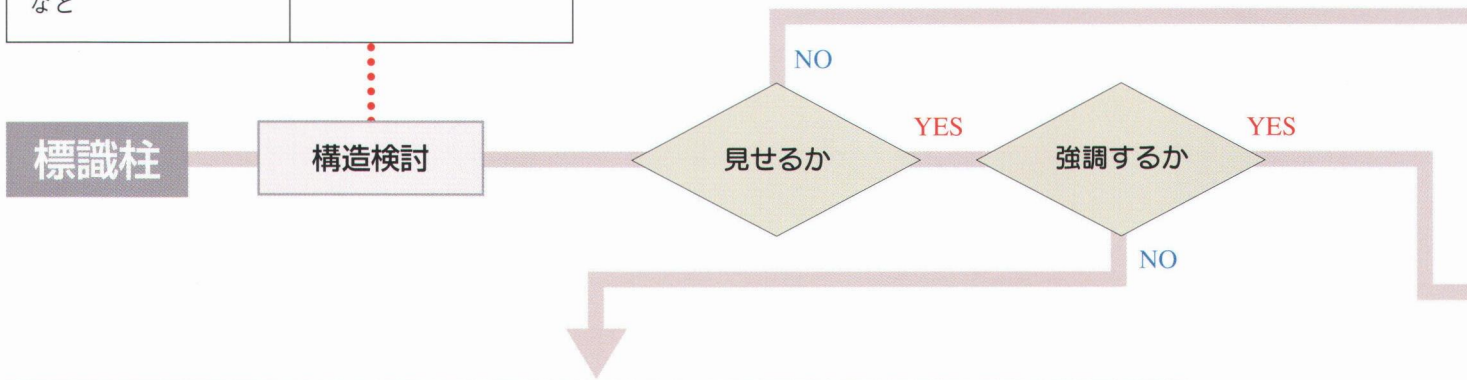
5. 標識柱の計画フロー

調査項目	検討項目
①標識の種類 ②周辺環境 (郊外、都市、山岳) ③上・下部工形式 ④橋梁色 ⑤視点位置 など	①標識柱の強度 ②耐震性 ③視認性 など



設計強度

- ・死荷重(標識板、予備標識、標識柱本体)
- ・作業荷重
- ・風荷重
- ・防振照査(溶接部ボルト部の疲労照査等)



融和型

形状の工夫



橋梁と一体感があるデザインの例



周辺形状に合わせた例

- 留意点**
- ①デザイン性を持たせ融和させる。(例えば、角部に曲線を用いて柔らかな印象を与える。ボルト類の露出をしないよう配慮する。)
 - ②標識柱と主構造および周辺形状との一体感を図る。

色彩の工夫



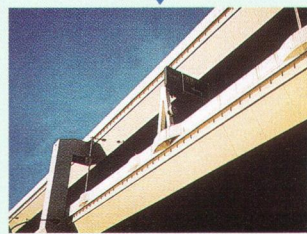
白色を用いた例



茶褐色を用いた例

- 留意点**
- ①類似調和する色彩を選定する。
 - ②橋梁本体と同じ色彩にする。
 - ③背景と同じ色彩にする。
 - ④違和感を感じさせない。

配置の工夫



基部の突出感をなくした例



路線で統一された柱を用いた例

- 留意点**
- ①突出感がない位置に設置する。
 - ②統一された形状の標識柱を配置する。
 - ③連続性を考慮した配置にする。

消去型

形状の工夫



防音壁に設置した例



照明柱に添架した例

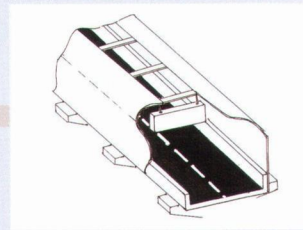
留意点

- ① 照明柱や防音壁の柱部材に標識を設置することで、柱部材をなくす。不規則な柱（ポール）の乱立を避ける。

配置の工夫



橋脚に設置した例



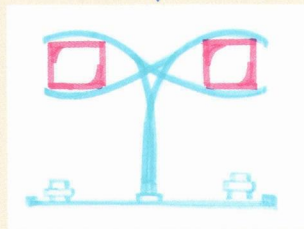
防音壁に設置した案

留意点

- ① 橋脚、防音壁など大型構造物に標識を設置し柱をなくす。

強調型

形状の工夫



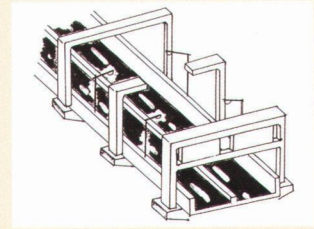
標識柱をデザインした例

色彩の工夫



橋梁本体と対照調和している例

配置の工夫



橋脚ごとに設置する案



ゲートとしての標識柱の例



アクセントカラーの例



基部が目立つ例

留意点

- ① 標識柱を中心にデザインする。
- ② ゲートとして標識柱を利用する。（例えば、写真のような構造物に標識を添架する手法など。）

留意点

- ① 橋梁本体や標識と対照調和する色彩を柱に選定する。
- ② アクセントカラーを用いる。

留意点

- ① 標識柱あるいは、柱部材を橋脚ごとに設置し、外部景観において強調する。
- ② 基部など突出感のある位置を目立たせ、アクセントポイントとする。